

## I. リーマン・ショックがその後の家計に与えている影響

### (1) 収入が減少した世帯は、今なお当初の収入を回復できていない

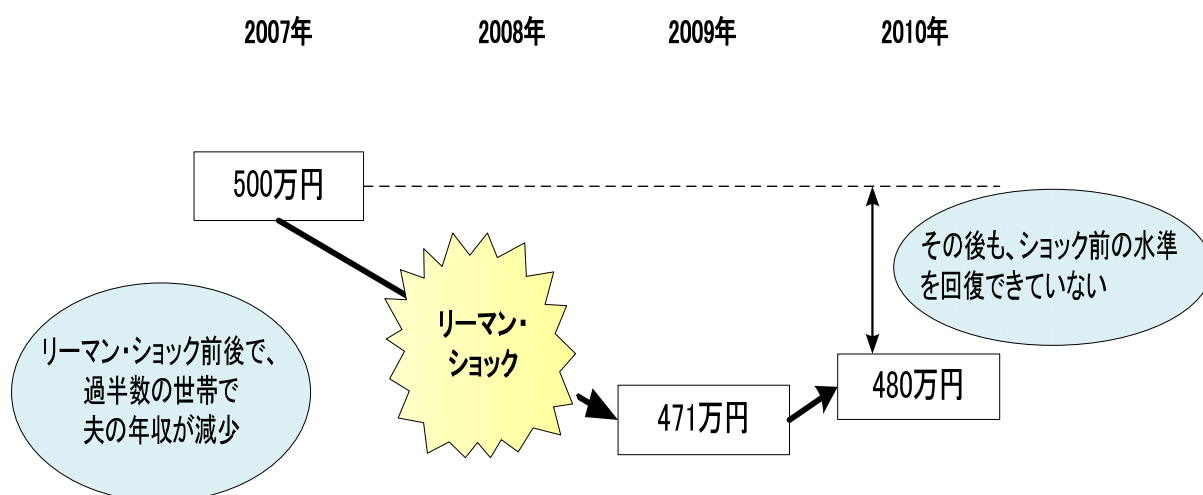
2008年秋に起きたリーマン・ショックから4年が経過した。リーマン・ショックの影響が家計に及ぼした影響は、その後どのような展開をみせているのだろうか。

そこで、夫の年収（勤労所得、税込）について、リーマン・ショックが起こった2008年をはさんだ、2007年と2009年の変化、そしてその後の展開として2010年の年収を調べた。特にここでは、「リーマン・ショックをはさんで夫の年収が不変ないし減少した世帯」（以下、「減少世帯」）に注目した。なお「減少世帯」の全世帯数に占める割合は、**53.6%と半数を上回っている。**

この「減少世帯」について、リーマン・ショックの前後での年収の変化を調べたところ、ショック前の2007年には500万円だったのが、ショック後の2009年には471万円と減少していた（金額はいずれも中央値）。その後の2010年の年収は、再び増加して480万円（中央値）となったが、ショック前の金額になお達していないことがわかった。

つまり「減少世帯」では、夫の収入がリーマン・ショック以前の水準を回復しておらず、ショックの影響から脱しきれていないことがわかった。

図表 I - 1 「減少世帯」の夫の年収の変動



#### 【備考】

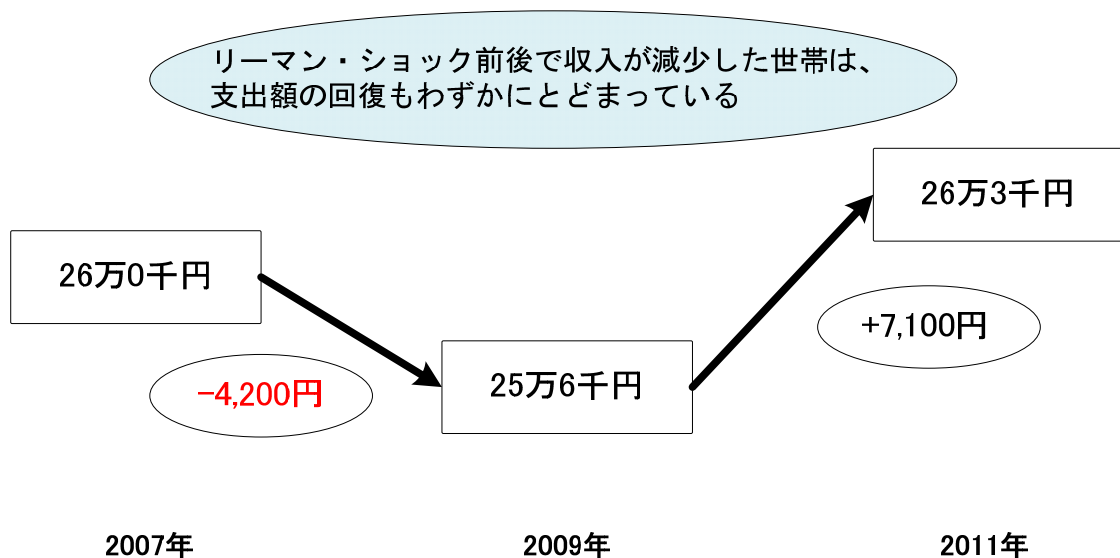
対象：有配偶世帯（979世帯）

## (2) 収入が減少した世帯は、支出の回復もわずか

次に、「リーマン・ショックをはさんで夫の年収が不変ないし減少した世帯」（「減少世帯」）について、消費支出（9月1か月分の支出額）はどのように変化したのかを調べた。

「減少世帯」の1か月の支出額（平均値）は、リーマン・ショックをはさんで4,200円減少しており、収入の減少に呼応して支出も減っていることがわかる。その後、2009年から2011年の間では、支出額は7,100円増加しており、リーマン・ショック前の2007年の支出額をわずかに上回る程度であった。

図表 I - 2 「減少世帯」の支出額の変動



### 【備考】

対象：有配偶世帯（416世帯）

各年の9月1か月の支出をもとに算出した平均値

差額は個々の対象世帯の差額の平均値であるため、支出額の差とは一致しない

(3) 収入が減少しても、「子どものための支出」は捻出している

前の項目で、リーマン・ショックをはさんだ夫の年収の変化と、1か月の支出額との関連をみたが、より詳しくみた場合、家族の誰のための支出が特に影響を受けたのだろうか。また、貯蓄やローン返済についても、リーマン・ショックの影響を調べてみた。

「リーマン・ショックをはさんで夫の年収が不変ないし減少した世帯」（「減少世帯」）について、家族成員ごとに支出額の変化をみると、ショックの前後で、夫や妻の支出額が減少していることが確認できる。また、貯蓄の減少が顕著で、夫のための支出も減っており、全体として支出の引き締めがなされたことが浮かび上がっている。しかし他方で、それにも関わらず子どものための支出は微増しており、厳しい家計の状況下でも、子どものための支出は減らされておらず、いわば聖域であり続けていたことがわかる。

その後、2011年にかけての支出額の変化をみると、子どものための支出・家族共通の支出・貯蓄がそれぞれ大きく増えている。ショック前の支出と比べても、夫のための支出が減り続ける中、子どものための支出は常に優先的なものであり続けている。

図表 I - 3 「減少世帯」の家計の変化

	2007年→2009年 の変化	2009年→2011年 の変化	2007年→2011年 の変化
支出合計	-4,200円	7,100円	2,900円
家族共通の支出	300円	5,300円	5,600円
妻のための支出	-1,000円	1,300円	300円
夫のための支出	-2,100円	-300円	-2,400円
子どものための支出	1,000円	6,100円	7,100円
それ以外の人のための支出	-1,300円	500円	-900円
貯蓄	-7,400円	3,200円	-4,200円
ローン返済	-1,100円	500円	-500円

【備考】

対象：有配偶世帯のうち「減少世帯」（416世帯）

各年の9月1か月の支出をもとに算出

個々の項目ごとの変化額の平均値であるため、足し合わせても支出合計の変化額とは一致しない